



室蘭工業大学ロールモデル集:大学院を修了した先輩 11名からあなたへ贈るメッセージ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 室蘭工業大学男女共同参画推進室 公開日: 2017-08-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/00009421

ROLE
MODELS
BOOK

MURORAN INSTITUTE OF
TECHNOLOGY

| 室蘭工業大学ロールモデル集 |

大学院を修了した先輩11名から
あなたへ贈るメッセージ





学長あいさつ

「室蘭工業大学ロールモデル集：大学院を修了した先輩11名からあなたへ贈るメッセージ」をお届けします。

本学に2014年度に入学した学部1年生の女子学生率は12%(75名)、大学院博士前期課程では、10%(20名)、博士後期課程では14%(3名)であり、工業大学であることを割り引いても、小さな数字です。しかしながら、キャンパスでは数字以上に女子学生の活躍が目立ち、その一つのロールモデルともなる女性教職員の数も、本学全体で取り組んでいる男女共同参画事業の推進により着実に増加しています。



今後は女子学生の皆さんの出口、就職分野を広げていくことが課題と捉えています。本パンフレットも、ぜひ皆さんが自身の将来を考える際のきっかけにしてください。少子高齢化が進む我が国においては、女性が活躍する分野はこれまで以上に拡がります。本学の第一のミッションである主体性のある高度な科学技術者を育てることに關しても、女子学生の皆さんがより重要な存在となり、皆さんの活躍がこれからの日本の社会、産業の発展には欠かせません。本学も様々な観点から、大学をあげて皆さんを育て、活躍できる環境を提供していきます。

2015年 4月 国立大学法人 室蘭工業大学 学長 空閑 良壽

お話をうかがった
OGの皆さん



関 千草 さん
[応用化学専攻 修了]



鹿 美麗 さん
[生産情報システム工学専攻(博士) 修了]



余湖 瞳子 さん
[建設システム工学専攻 修了]



平川 里奈 さん
[機械システム工学専攻 修了]



T.S さん
[建設システム工学専攻 修了]

女性が最大限に能力を発揮できる ステージを目指して

大学院への進学は女性が出産・育児を視野に入れ、主体的に働き方を選択できる、
豊かなワークライフバランスを育むステップのひとつです。

INDEX

- 01 学長あいさつ
- 03 Q1 大学院へ進学しようと思った理由やきっかけは？
- 05 Q2 大学院に進学して良かったことは？
- 07 Q3 大学院に進学して得たことは？
- 09 Q4 現在、またはこれまでの仕事の内容とやりがいほ？
- 11 Q5 後輩へのアドバイスやメッセージ
- 13 男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット概要／
大学院概要



M.S さん
[応用化学専攻 修了]



大野 綾子 さん
[電気電子工学専攻 修了]



K.S さん
[応用化学専攻 修了]



C.K さん
[建設システム工学専攻 修了]



T.C さん
[建設システム工学専攻 修了]



Y さん
[建築社会基盤系専攻 修了]



学部4年で公務員試験を受験したが採用されず、再度受験することを考えた際、**大学院へ進学して専門性を習得することが合格への近道**だと感じたから。



関 さん



T.S さん

マスター入試の面接の際は、「**もっと研究をしたい**」といった内容を述べたと思います。それも事実ではありますが、当時、希望していた職業に就職しようと思うと、学部卒は(少なくとも私の實力では)厳しかったという側面も大いに影響しました。



K.S さん

- ・4年生の時にやっていた**研究が面白く、研究を続けたかった。**
- ・研究室とサークルが楽しく、学生生活を続けたかった。
- ・**両親や先輩方の助言。**
- ・4年生の時は就職難の年だったため。
- ・やりたい仕事が決まっていなかったため。



平川 さん

いまとなっては記憶おぼろげですが、入学した頃より**自分は進学するものと自然と考えるようになりました。**



T.C さん

学部3年の時にこのまま社会に出てやっていけるか不安だったことと、今いる会社に入社したかったため、**院卒の採用の方が有利だったから。**



大野 さん

PICK UP



氏 名 関 千草 さん

勤 務 先 国立大学法人 室蘭工業大学

役 職 助教

職 種 教員

平成8年応用化学専攻博士前期課程修了ののち、室蘭工業大学教務職員、助手をへて現職。平成24年博士(工学)取得。

そんなに大きな目標があり進学したかというところでもなく、技術者になるためには大学院への進学がもう(当時でも)普通だろうなと感じたことと、学部の1年間だけではなく**研究をもう少し続けたい**と考えたのが理由です。

単純に**研究室配属が1年というのは短いと感じていた**。研究室の院生を見て、私も院に進学して、もっと勉強したいと思ったことがきっかけです。当時はアトリエ系の就職を考えており、院に進学するのが当然という流れがあった。また、**4年生の時は就職氷河期で、2年たてば変わるかも、という期待もあった**。



余湖さん



C.K.さん

- ・就職先の幅が広がったから。
- ・公務員試験がだめだったから。
- ・研究が楽しくなってきたから。



学部では微生物系の研究室に所属しておりましたが、そこでは微生物を用いて世の中の化学物質を分解するという研究を行いました。非常に意義のある研究でしたが、有効な微生物を見つけ物質を分解または作り出すことよりも、「**化学合成**」にて**人々の役に立つ物質を設計したいという想いの方が勝り**大学院へ進学しました。



M.S.さん

学部3年生の時の講義および実験を通して、高電圧工学に興味を持ち、修士課程まで進んで、**より深く知識を得たい**と思ったことがきっかけです。また、**技術者として男性と同様に定年まで働きたい**と思っていたことも大学院に進学した理由の1つです。



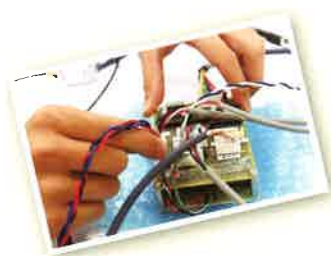
鹿さん

最初は外国人研究生として勉強していましたが、**もっと勉強したい**と思って、修士課程に進みました。その後、修士で勉強してきた科学分野について専門知識を深めたく博士課程に進学しました。

関 千草さんからのひと言

いままで女性が少なかった工業大学ですが、性別に関わりなく学生がのびのびと過ごせる環境づくりにむけ、制度や設備の改善が進んでいます。元気で優秀な学生ができるだけ長く仕事を続けていけるようなスキルを大学院で磨いていただきたいです。





Y さん

研究活動や人間関係等、学部の際に得られた経験とは全く違い、体力・精神的に大変だったため、**社会人になってから業務を行う上で気持ちに余裕を持って行うことができたこと**。大学院進学が決まった後にリーマンショックがあり就職氷河期中での就活になったが、学部生の際と比べて成長している実感があったため、あまり不安等はなく就職できたこと。



M.S さん



関 さん

学会等に参加する回数が増えるので、**他の大学の先生や学生の皆さんと話す機会が多くなり**、自分の研究のことだけではなく、企業との仕事があることや違う分野の研究を知ること**で視野が広がりました**。



鹿 さん

大学院での勉強は大学生と違い、自ら勉強を進めることになります。もちろん指導教官の教えもありますが、自分で考えること、他の参考文献を調べて理解すること、課題の解決方法を探ることなど、**問題を解決する能力が身に付きました**。



T.C さん

- ・ 大学院2年間は、結構勉強が出来たと思う。
- ・ 研究が大変だったが、今の会社で大変な時、あの時やれたからまだ頑張れるという経験が出来た。
- ・ **良い仲間に出会えた。**



余湖 さん

将来について考える時間を持てたこと。

院の2年間で設計コンペに挑戦したり、設計事務所でのオープンデスクへの参加ができたこと。この2年があったから、自分は何をしたいのか、どのような道に進みたいのか、ということを考えることができた。

だからこそ、今も新卒で入社した会社で働いており、違う道に行けばよかったと後悔したことはありません。(辛くて辞めたくなくなったことはありますが)



K.S さん

PICK UP



氏 名	鹿 美麗 (ルー ビレイ) さん
勤 務 先	(株)シー・イー・サービス(建設コンサルタント)
役 職	企画部課長
職 務 内 容	建設関係の事業企画、事業評価、交通流分析など
平成9年生産情報システム工学専攻(博士後期課程)修了	



2009年ライン河畔(ドイツ)にて

2年間という時間の中で、学部時代よりも**更に密度の濃い時間を過ごせました**。進学
のきっかけである人々の役に立つ物質を設計
したいという想いも、抗腫瘍活性を持つ天然物
を有機合成にて作り出すという研究に携わる
ことで叶えることができました。

tion 2

たこと

に進学してみて、
思うことは
でしょう？



所属していた研究室では、「マスターが、担当する学部生の卒論を
仕上げるように責任をもって指導する。」という形式を採っていた
ため、後輩の指導や実験計画は、ある程度自分の裁量によるもの
でした。そのため、直接人に教える経験ができたこと、後輩の失敗
は自分の責任であると実感すること、結果的にPDCAサイクルを
実行する癖がついたことなど、**学業や技術面以外で社会人
として必要になるようなことを経験**でき、とても勉強に
なりました。

もちろん、あるテーマについて、時間をかけて実験やその勉強が
できたことも利点の一つです。私の場合、その専門性が強い会社
に就職したため、専門分野について大学院で2年間学んでから就
職できたことは大きかったです。

正直なところ、学業的な知識面では、学部時代から比
較しても劇的な変化はなかったと思います。しかし
ながら、今、自分が知りたいことが具体的に何に細分
されているもので、これを知るには何を調べると良
いのか・・・など、少しずつではありますが、自分が身
を置く分野の仕組みを知ることができました。この
ことは今でも仕事をする上で役に立っています。



C.K さん

- ・より専門的な知識を得られた。
- ・学部のときより将来について、
もう少し明確なビジョンを持てた。



平川 さん

**素晴らしい先生方からのご指導、
及び、向上心の高い友人や先輩方との出
会いは、他に代え難いものです。**

- ・学会で発表する経験を得られたこと。
- ・TAをやって学部生に教える立場を経験で
きたこと。
- ・研究室仲間の研究も近くで見られたので、
自分の研究以外の分野の視野も広がったこと。
- ・大学院の入試の勉強をしたこと。
(大学受験より勉強した。)



大野 さん

学会発表などを通して、**技術論文作成やプレゼン
テーションを数多く経験**したことで、これらについ
ての技術やノウハウを得ることができました。これらの
知識やノウハウは、就職後に大変役に立っています。ま
た、漠然とした回答になってしまいましたが、大学院に進ん
だことで「視野が広がった」気がします。



氏 名	余湖 瞳子 さん
勤 務 先	株式会社大京(不動産)
役 職	建設統括部 商品企画室 主任
職 務 内 容	マンションデベロッパーの商品企画業務、 オリジナル商品(キッチン・洗面)の開発など
平成16年建設システム工学専攻修了	



掲載情報は平成27年3月現在のものです。



余湖 さん

筋道を立てて物事を考える力。ゼミ等で身に付けた、
誰かに自分の考えを伝える力。自分でスケジュールを
立てて研究を進めるという、**タイムマネジメント**等、社会
人になって役立っていることが多いです。

私の場合、研究が直接業務に関わっているわけではありません
が、上記のような経験を学生時代にしている人が周囲にはほと
んどいないので(文系・学部卒中心)、こういった経験ができた2
年間は貴重だと感じています。



Y さん



鹿 さん

大学院での研究経験があったことによって、
社会に入ってより早く**会社の戦力にな
ることができた**と思います。



T.S さん

プレゼンや資料作りの基本、飲み会の幹事の基本、
より**専門的な知識やを将来の明確なビ
ジョン**などを得られた。



関 さん

自分で実験計画を立てて、他の人に説明し、その計画に沿って実
行することや、忙しくなったときの自分なりのスケジュール管理
の仕方、**失敗してもただの失敗に終わらせないことを
学びました**。元々、話すのは得意ではありませんが、何とか人
に理解してもらうために分かりやすくプレゼンテーションする
ということもゼミや研究発表などの機会を通して身に付けたと
思います。



M.S さん

PICK UP



氏 名 平川 里奈 さん

勤 務 先 セイコーエプソン株式会社
(電気・精密機器)

職 務 内 容 社内情報システム運用、企画
平成12年機械システム工学専攻修了



氏 名 T.S さん

職 種 会社員

職 務 内 容 土木、建設等

平成14年建設システム工学専攻修了



K.S. さん

○人との繋がり

研究室仲間だけでなく**共同研究している企業の方と関わった**ので、少しだが社会を経験していた事が、就職活動中や新入社員時代の糧になったと思います。

○知識の使い方

学部時は知識を得るだけでしたが、**大学院で研究した事で知識の使い方を覚えられた**と思います。社会人になって、大学時代に覚えた化学の専門知識を使うことは少ないですが、知識の使い方を発揮する場面は毎日のようにあります。



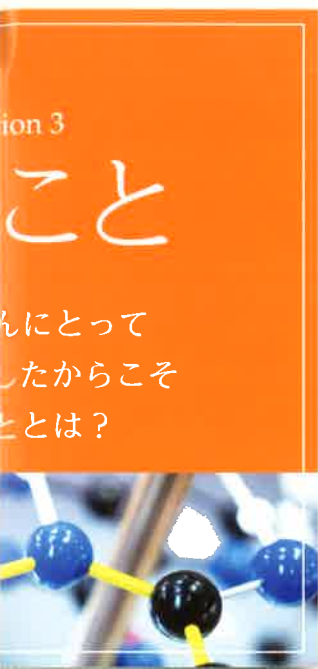
T.C. さん

- ・ **根性。**
- ・ 基礎知識。やっぱり会社に入ってから学ぶことのほうが多い。



大野 さん

学会発表などを通して、技術論文作成やプレゼンテーションについての技術やノウハウを得ることができました。また、研究室内の後輩への指導やティーチングアシスタントなどの経験を通して、**人に教えるスキルも磨くことが出来た**と思っています。



専門知識はもちろんその他研究活動を行うことにより、**物事の見え方や捉え方、進め方、時間の使い方、見切りの付け方等**、教養以外のことで幅広く活用できる能力を多く得ることができた。

有機化学の専門知識や、実験の手法、論文の書き方など。また、有機化学以外でも大学院の**ステップアップした授業内容から、更に多くの知識に触れることが出来ました。**また、院からの配属を受け入れてくださった恩師、共に学んだメンバーたちなど**かけがえのない人々との出会い**もありました。



氏 名 M.S さん

勤 務 先 大学

職 務 内 容 実験補助

平成16年応用化学専攻修了



氏 名 大野(勝又) 綾子 さん

勤 務 先 東芝ソリューション株式会社
(ソフトウェア開発)

勤 務 内 容 主にWebアプリケーションの
設計・開発・保守を担当

平成20年電気電子工学専攻修了

掲載情報は平成27年3月現在のものです。



T.S さん

現在、私は建設業界の中で地質調査を行う会社に勤めております。我々の仕事は、工事の前段階である調査がメインではありますが、我々がしっかり仕事をしないと最終的な成果に影響が出てしまいますし、**建設業界全体が強い公共性を持っていることから、責任と気概をもって仕事に臨んでいます。**

特に、災害時にはスピードが求められ、極めてタイトな工程を組まざるを得ない場合もありますが、我々が一日でも早く業務を進めることで少しでも助かる人々がいるのだと思うと、疲れていてももう一步先に進むように仕事に取り組むことができます。また、現在は、調査業務がより良い方向に進むようにアシスタントする機会が与えられております。この機会を逃すことなく、そのための勉強をし、業界や社会に貢献できればと思っております。



C.K さん



- ・ **自分が設計したものが出来上がるのが今は楽しみです。**
- ・ 災害などの対応は大変だが、人が暮らす上でのインフラを守るのは良い仕事だと思う。



T.C さん



平川 さん

今は育児のため仕事の内容・責務ともにベースダウンさせてもらっています。

20代のうちに**国内外の自社製造・販売拠点のシステム改善に関わらせてもらいました。**内容的にも日程的にも若い時代に任せてもらうには少々重めで、つらい思いも多少はありましたが大変刺激にもなり、その後も仕事を続けたいと思うモチベーションになっています。



Y さん

現在の仕事は、会計関係の業務であり、具体的には外部資金執行の管理及び決算報告、大学予算の管理、給与・共済関係の手続き等、幅広い内容を扱っている。

異動が頻繁にあり様々な業務や人に関わることから、常に覚えることやその部署に慣れることが必要になるが、新たに得るものが多く**常に違うゴールがあり到達できることにやりがいを感じている。**



M.S さん

現在所属している研究室は触媒化学という今まで行ってきた研究とは異なる分野です。仕事内容は実験の補助として試料の測定や、必要な化合物の合成などを行っています。**化学の新たな一面に触れることができ、とても貴重な体験**をさせていただいています。



関 さん

PICK UP



氏 名 K.S さん

勤 務 先 凸版印刷株式会社(印刷業)

職 務 内 容 設備改善及びメンテナンス、
材料選定、新商品立ち上げ等

平成20年応用化学専攻修了



氏 名 C.K さん

勤 務 先 応用地質学株式会社
地球環境事業部職 務 内 容 災害廃棄物の処理計画作成・
発注支援・土壌汚染調査 等

平成20年建設システム工学専攻修了

東日本大震災以降、災害廃棄物の処理に関わっている。

大学・大学院で学んだ知識が少しでも役に立っ

ていると思う。現在の業務に関わることで、外部の先生方との交流もあり、大学院時代にお世話になった方々とお会いすることもあり、良かったなと思うこともある。



ソフトウェア、主に、Webアプリケーションの開発に従事しています。クライアントとの要件定義から設計、実装(プログラミング)、試験、リリース後の保守までを一貫して担当することが多いです。

大学院進学のきっかけとなった高電圧工学とは、全く異なる分野の仕事ですが、就職してから、学生時代に苦手だったプログラミングが好きになりました。

顧客の求めている要件をスマートなコードに落とすことができた時、プログラマーとしてのやりがいを感じます。

製品を完成させて、利用してくださったお客様から役に立ったと言っていた時、エンジニアとしてのやりがいを感じます。



大野さん



K.Sさん

印刷に関する全てを担う技術員です。印刷会社に入社し、印刷工程を担当させてもらえたのはとてもラッキーだと思っています。世界的に見ても日本の印刷技術はトップクラスなので、技術員としてその印刷技術を牽引出来ると思うとモチベーションが上がります。

また、デザイン～印刷～商品になるまでの色を操る仕事は、難しいですがとても楽しいです。自分が色を作った製品が店舗に並んでいるのを見ると、嬉しくなります。



余湖さん

現在は「導電性高分子を用いた機能性電極の開発」をテーマに研究を進めています。予想したと違う結果にがっかりすることもあります。その中でも新しい発見があることは、やはり研究の楽しいところだと思います。また、指導した学生さんが講義で「分からなかったところが分かるようになりました」と言ってくれたり卒業生ががんばって社会で活躍しているのを見ると嬉しいです。

今年で入社11年目ですが、入社当時は新築マンションの販売、2年目から4年目はマンションの用地仕入れ、5年目から9年目は新築マンションの施工管理(事業主としての検査や現場管理を行う)、10年目～新築マンションの商品企画をやっています。総合職で入社しているので、最初は全く建築系ではありませんでした。しかし、その部署で努力し、結果を出せば自分の希望職種に移れるのかな、と感じました。

住宅購入という一生に一度の買い物(である場合が多い)に携わる仕事なので、やりがいはあります。施工管理のころは、設計事務所・ゼネコンと打ち合わせを重ね、厳しい工期の中、無事竣工させ、お客様に問題なく引き渡せたときの喜びは大きかったです。

現在は、自分が提案した企画が、物件に採用され、名前が付き、商品のロゴができ、広告に載ると、すごく嬉しいです。建築に携わっているのも、仕事が形に残ります。形に残る仕事をする分、責任もありますが、やりがいを感じています。



氏 名 T.Cさん
職 種 会社員(建設コンサルタント)
職務内容 橋梁の設計・調査・維持管理
平成20年建設システム工学専攻修了



氏 名 Yさん
勤務先 国立大学法人 北海道大学
職 種 事務職員
職務内容 会計業務
平成23年建築社会基盤系専攻修了



大野 さん

進学・就職を考える時は、**目先のことでなく5年後10年後に自分がどうなっていたいか**、具体的なライフプランを立てて、検討してみるのも良いと思います。特に女性の場合は、未だに結婚・子育てが生活の中で大きなウェイトを占めることが多いです。研究や仕事と、結婚・子育てを両立したいと思っている場合は(ほとんどの女性がそうだと思いますが)自分が選ぼうとしている道と結婚・子育てが両立できそうかを検討したほうがよいと思います。具体的には、志望企業の福利厚生や実際に子育てをしながら働いている先輩の女性社員の有無、人数などです。

私の場合、就職時にそこまで深く考えていたわけではありませんが、技術職にしては、女性比率の高い職場で、子育てをしながら働いている先輩も多く、結婚妊娠を理由に離職する人がほとんどいせん。そのため、安心して子供を出産し、育児休業を取得することができました。復帰後は仕事と家庭との両立が待っていますが、職場には先輩ママさんが大勢いるためとても心強いです。人生で何に重きを置くかは、人それぞれ様々だと思います。**進学・就職にあたっては、じっくりしっかり悩んで、ぜひ納得のいく結論を出してください。**皆さんの未来が幸多き事を願っています。



M.S さん



鹿 さん

これからの日本の社会は、女性も活躍できる時代が訪れると考えます。**女性も自分のキャリアを持ち、男性とともに働き、子育て、充実した人生を味わえる**と思います。そのため、若いうちにもっともっと勉強して、得意とする専門分野を持つことは大事だと思います。



C.K さん

- ・ 学生のは、たくさん遊んで、たくさんいろんな人と接することが大事かと思います。
- ・ **いろんな見方ができるようになってください。**
- ・ **努力よりも忍耐が大切だ**と思います。頑張ってください。



T.S さん

本企画は「理系女学生の大学院進学推進のために」とのことですが、特に卒業年次や就職について考えておられる方に向けて書いていきたいと思っています。

他の業界は分かりませんが、私が身を置く建設業界はまだまだ男性社会だと思います。多くの方がそうであるように、私も女性技術者として得をする場合と損をする場合の両方を経験します。具体的には、前者は委員会へのお声掛けや初対面の方に覚えていただき易いことなどであり、後者は体力的なことがその多くを占めます。

個人的には、体力的なことは、女性技術者にとって大きなテーマの一つだと思っています。私の経験をもとに若い方にアドバイスをするならば、建前をいうと、会社では**体力に代替するような武器を身に付けることが大事だ**と思います。(「建前」と書きましたが、これは「必須事項」と言い換えても良いかもしれません。)そして、本音を言うと、若いうちに体力の限界を知っておき、身体のメンテナンスを仕事と同じような重さで大切に、希望された職務に長く携わってほしいです。

私は修了年次に第一希望の某大手から内定を頂くことができず、お世

話になった先生の紹介で現在籍を置いている会社に就職しました。職種柄会社の規模は小さいのですが、私が若手の頃、自分の得意分野(修士論文で扱ったテーマが属する分野)の業務が舞い込み、結果、その業務を担当しました。全体的にはかなり規模が大きい業務で気後れしましたが、色々な面でとても勉強になり、そこでのご縁も出来ました。若い時にそういったチャンスが舞い込む可能性があるのは、規模が小さい会社ならではのようです。また、自分の性格的な面でも、規模が小さく、意見が通りやすい今の会社の方が良かったかも…と思うことも少なくありません。

就職先を選択するに当たって、仕事の選択の幅や業務の大きさに選ぶならば、大手が良いかもしれませんが。女性技術者へのサポートも大手企業の方が手厚いことが多いと思いますが、その会社の規模や社風が自分に合う・合わないも、可能な限りリサーチし、総合的に判断することをお奨めします。また、就職に関するリサーチも含め、今は色々なことを知り、**色々なことにチャレンジできる良い時期だ**と思います。その内容が特別なことである必要はありませんが、是非、学生の内に様々なことを吸収してから社会に出てほしいです。

後輩に

大学院進学を
アドバイスや
お願い





余湖 さん

勉強に集中して取り組めるのは学生の間だけなので、その価値を忘れず時間を有効に活用してください。**学生時代の頑張り**がその後の人生の糧になります。特に**大学院は専門的な環境に身を置けるチャンス**とも言えるでしょう。学生生活を楽しまつつ、頑張ってください。



研究室の正統派ではなく、しかも研究者ではない私が、アドバイスなどできる立場ではないと思いますが…もし、進学で迷っているなら、進学したほうが良いと思います。**就職してから、やっぱり院に行けばよかった、と思うより、今、進学しちゃうほうが案に決断できます。**就職してからだと、経済的な面やキャリアを捨てることも天秤にかかりますね。人生の中で、2年間もしくは5年間(までは私は進む能力がなかったですが)というのはそれほど長い時間ではありません。むしろ、この2年・5年でしかできないことがあると思います。その時間を有効に使って、そのあと、身に付けた能力を長期間にわたって発揮できることが大切なのではないかと私は思っています。個人的に、女性だから、男性だから、と性別で考えるのは好きではないです。ただ、建築業界は圧倒的な男性社会で、最初は嫌な思いもしました。でもこの10年でそういった環境はすごく変わってきています。だから、**自分がやりたいことを、できるうちに、後悔しないよう挑戦してほしい**と思います。

tion 5

向けて

考える後輩へ
メッセージを
します。



平川 さん

子を産み育てながら働くことには困難も伴いますが、視界が広がる喜びが非常に大きいものでした。ただ、自分の反省も込めて…女性は勉強もその後のキャリアも「前倒し」で取り組むことをお勧めします。

懸命に学び、そして働くことは、産んでくれた両親への恩返しであり指導してくれた先生方(もちろん本学の先生方も、高校以前に出会った先生も)への最大の恩返しだと思います。**本学で学んだことを誇りに、日本で、世界で活躍すべく、臆せず様々なことにチャレンジ**してください。



T.C さん

- ・ 女の人が社会に出て働くのは大変だと思うけど、**男の人と競って仕事をするのではなく、お互いの出来る所をおぎないながらやるのがいい**と思う。
- ・ 今まで負けてたまるかと思いながらやってたけど、体力や力では違いがあるのはしかたがないので、そういった部分は悩まない方がいいと経験上思いました。



K.S さん

4年生の段階では、やりたい仕事や進みたい分野が明確でない人もたくさんいると思います。私も実際そうでした。**大学院に進み視野を広げることで、自分の方向性を見出せたり、可能性が広がったり**すると思います。今の学生という貴重な時間は終わってしまえば2度と取り戻せないで、**環境が許すのであれば、大学院でしか経験できない2年をぜひ過ごしてほしい**と思います。



Y さん

最近では女性の評価が上がってきているものの、職種によっては精神・体力的に負担の大きいことがあるかと思います。大学院への進学は専門性を身に付けるだけでなく、人として成長することができるきっかけ、社会人になって**大変な時期を乗り越えるだけのモチベーション等を身に付ける**きっかけになるかと思います。進学を検討されている方は、**そのチャンスを逃さないように頑張ってください。**



関 さん

就職してから何年後かの未来をイメージするのはなかなか難しいかも知れませんが、大学で身に付けたことを生かして仕事を続けていくことを少しでも考えるならば、進学して自分の専門と言えるものを持った方がよいと思います。女性が生き生きと活躍できる場は確実に増えています。皆さんも自分らしい将来を手に入れるために、**興味を持ったことは手放さずに取り組んでください。**



男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット

概要

男女共同参画推進室は平成22年10月に本学の男女共同参画事業の推進を図るため、学長の下に設置されました。平成25年8月には文部科学省科学技術人材育成費補助事業女性研究者研究活動支援事業(一般型)に採択されたことを受けて、26年3月に女性研究者支援ユニット(UFR)を設置しました。現在、教育、研究1号館A331室で活動中です。少子高齢化・グローバル化など変化していく社会にあって、本学をさらに発展させ一層の社会貢献をしていくためには、学内の男女共同参画の推進は避けて通れない課題です。これに対応するため、様々な活動を通して本学の男女共同参画を推進しています。

男女共同参画推進室

Office for Promotion of Gender Equality

女性研究者
支援ユニット

Unit for Female Researchers

男女共同参画推進室メンバー

担当理事：伊藤 秀範 [理事(総務担当)・副学長・教授]

室長：木幡 行宏 [くらし環境系領域・教授]

室員：太田 香 [しくみ情報系領域・助教]

岸本 嘉彦 [くらし環境系領域・助教]

貞許 礼子 [くらし環境系領域・特任教授]

(女性研究者支援ユニット コーディネーター)

関 千草 [くらし環境系領域・助教]

室員：津川 貴裕 [学生室厚生ユニット スタッフ]

永井 真也 [ひと文科系領域・准教授]

成田 幸仁 [もの創造系領域・准教授]

古屋 温美 [くらし環境系領域・准教授]

堀切 香菜 [財務グループ総務ユニット スタッフ]

乙川 裕美 [女性研究者支援ユニット特定専門職員]

木村 友也 [総務グループ職員ユニット スタッフ]

大学院概要 | 夢とキャリアにプラスを

博士前期課程
(修業年限2年)

「主専修・副専修」科目の導入、複数教員による指導体制を確立し、各専門分野のみならず、その周縁の基礎知識修得に配慮しています。

環境創生工学系専攻

「環境」を中心としてそれを取り巻く工学の諸分野を扱い、環境と調和した持続可能な社会を創生していくための幅広い内容に取り組めます。

物質化学コース

化学生物工学コース

環境建築学コース

土木工学コース

公共システム工学コース

生産システム工学系専攻

「ものづくり(=生産)」に必要なマテリアル、機械、物理工学等の基盤技術から航空宇宙機や次世代ロボット等の高度なシステム技術までの幅広い内容に取り組めます。

機械工学コース

ロボティクスコース

航空宇宙総合工学コース

先進マテリアル工学コース

応用物理学コース

情報電子工学系専攻

数理的な手法を基礎に、「情報・電子」に関連した種々の技術体系修得に取り組めます。

情報システムコース

知能情報学コース

電気通信システムコース

電子デバイス計測コース



事業内容

教職員・学生の妊娠・育児・介護などのライフイベントにおける支援体制の整備

- ・ライフイベント期の研究者への研究支援員配置
- ・ベビーシッター・シルバーシッター経費の助成、緊急時のタクシー経費の助成
- ・ライフイベント期の教職員に対する支援(自家用車通勤の学内駐車場使用許可手続きの案内等)
- ・相談受付(A331室で随時受付)



男女共同参画を進めやすい環境づくり

- ・学内施設の充実(おむつ替えシート・ベビーキープの設置等)
- ・近隣地域との連携(地域に向けた広報、室蘭市「赤ちゃんの駅」への登録等)
- ・大学関係者への情報提供(A331室における、妊娠・出産・育児・介護と仕事の両立に参考となる図書の閲覧・貸出)
- ・学生向けセミナー及び教職員向けセミナーの開催
- ・ウェブやニュースレターによる情報発信



A331室



ランチセミナー



学長と女性研究者の懇談会

博士後期課程 (修業年限3年)

1専攻体制とし、異分野の専門知識を有する学生間での議論、討論を通して互いに切磋琢磨する場を提供し、教育効果を高めます。

工学専攻

工学全般の諸分野を扱い、科学技術の進展による研究分野の変化や幅広い分野に関連する企業からの要望に柔軟に対応できるイノベーション博士人材育成に重点的に取り組みます。

先端環境創生工学コース

先端生産システム工学コース

先端情報電子工学コース

長期履修学生制度のご案内

仕事・育児・介護等で進学を諦めていませんか？

そんな方には「長期履修学生制度」があります。

特徴

修士・博士の学位取得に必要な単位の履修年限を、博士前期課程は4年まで、博士後期課程は6年までとすることで、ゆとりある履修計画が可能となります。修了までの授業料総額は変わりません。

申請資格

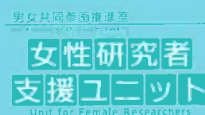
次のいずれかに該当する場合、長期履修学生制度の利用を申請できます。

- (1)官公庁、企業等に在職している者又は自ら事業を行っている者
- (2)育児、親族の介護等に従事している者
- (3)その他学長が認めた者

(大学院についての詳細は「大学院案内」等をご覧ください)



http://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/



国立大学法人 室蘭工業大学 男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット(UFR)

〒050-8585 北海道室蘭市水元町 27番1号 (教育・研究1号館 A331室)
Phone: 0143-46-5194, Fax: 0143-46-5195
E-mail: ge_ufr@www.muroran-it.ac.jp

平成25年度選定 文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業(一般型)